

反畑誠一（たんばた・せいいち）先生

音楽評論家 立命館大学客員教授

※講師紹介は、前ページに記載

《講義概要》

本講座のコーディネーターである立命館大学の反畑誠一客員教授が、後期の中間総括を行った。

まず、テレビなどで放送される楽曲の使用料を巡り、一般社団法人日本音楽著作権協会の徴収方法が独占禁止法違反にあたるかどうか争われた訴訟の判決に関する新聞記事を解説した。本講座の大きなテーマの一つである著作権に関わる最新の情報を示すとともに、「情報を正しく認識し、問題点を究明していく思考回路を持つこと」の大切さについて言及した。

続いて、「Culture First 推進 85 団体」について紹介し、記者会見「新たな補償制度創設に係わる提言について」の趣旨や会見内容を詳しく解説した。ほぼその機能を停止してしまった現行の私的録音録画補償金制度の問題点と解決策について説明し、私的複製に関する「利用者」「複製手段を提供する者」「権利者」の三者の利益のアンバランスを修正するため、経済合理性を備えた補償制度を新たに創設することが必要であることを示した。問題解決に向けてどうすればよいか、世論から盛り上げていくことも大切であり、グローバルな視点から今後も学習を深めて欲しいと伝えた。

最後には、デジタルネットに関する最新の用語を解説するとともに、ネットを利用する側の「モラル」の大切さについて示し、講義を締めくくった。



《受講生の感想》

●私的複製機器に対して、このような問題が生じていることは知りませんでした。私的録音、録画に関する多様な機器が出回っている中、権利者の権利、利益が損なわれているということは確かに文化の発展に大きな障害に繋がりがねない問題だと思います。技術の進歩によって録音・録画が簡単なものになり、一般の生活の中に広く文化的創作物が行き渡ることは創作者－利用者の関係が活発になっている証であると思い、良いことだと思います。しかし、その双方がきっちりと利益を享受できない体制は、いびつな関係であり、長期的にも持続できないものになりかねないと思いました。今後もこの問題について詳しく勉強し、動向を追っていききたいと思います。

立命館大学・産業社会学部・3回生

●UGCの二次創作や二次利用のほとんどは作家やオリジナル作品へのオマージュ行為であるからこそ、ユーザー、権利者による著作権に対する相互理解環境を促進しなければいけないと思った。音楽は人々の娯楽対象であり、決して刑罰の場とはならないのが理想であるが、パソコンの存在により利用者の利益が優先されて、提供者、権利者のバランスが崩れてしまうのが現実だと改めて感じ、難しい課題だと思った。

立命館大学・映像学部・2回生

●今広がっている私的複製によって権利者が利益を得ることができない状態になっているが、一番利益を得べきなのは権利者であるべきで、これは制度を作り改善すべき現状である。パソコンが普及したり、iPodなど音楽再生機器等により人々は簡単に音楽を得ることができるようになったが、どこかで歯止めをかけ、権利者の立場に立った策を講じて欲しいと思う。

立命館大学・産業社会学部・2回生

●文化の発展には、「権利が大きく関与していることを感じています。人々の行き過ぎる欲求を抑制するために、法律を課すわけですが、本日の講義で最後に反畑先生がおっしゃったように、それらの根底には「モラル」が存在し、それが何より大切です。ルールと罰を規定することも重要ですが、それこそ「スポーツマンシップにのっとって」のように人間として潤いのある行動を取ることが大切であると強く考えます。

立命館大学・法学部・3回生

●今回の講義のキーワードは「複製」と「著作権」。昔なら難しかった「複製」も今では機器が高性能であるため、一般人が簡単にできるようになっている。法により規制や保障を行ってはいるが、根絶できる程の効果は持っていない。著作権者の利益になるはずのものがならないようでは、あまりにも不合理である。さらなる対策を打ち出すことが必要であると考えます。

立命館大学・法学部・3回生

●これまでの講義で、音楽関連産業に携わる様々な方からお話を聞き、今まで目を向けることの少なかったコンテンツ産業の保護について知り、勉強になった。JASRACの問題もこの講座を取っているから目に留まったもので、もっと身近に考えていかなければと改めて思いました。補償金制度についても消費者と権利者、どちらにとってもプラスになるものとなればと思いました。

立命館大学・文学部・3回生

●最近ニュースやネット上で話題となっており、かなり気になっていたJASRACの訴訟事件について詳しく聞けたので良かったです。JASRACは絶対的存在だと思っていたので、独占禁止法に触れていると考えることがありませんでした。この件は国の法とも大きく関わってくるので、難しく複雑だと感じました。どうなっていくのか引き続き追っていききたいと思います。

立命館大学・産業社会学部・2回生

●公正取引委員会の判断が、東京高裁によって取り消しとなったJASRACの問題について、進歩する最先端技術に日本の制度がついていけない事が問題だと思った。新規参入事業があらわれた事により、音楽業界のつながり、構図を変えていく必要があると考える。また、録音録画機器、動画サイトなどの普及により、私たちが音楽に接する機会、手段が増加した。利益を得る人が増えた一方で、損失を受ける人々も多々いる、利用者一人一人がその様な自覚を持ち行動すべきなのだと思う。

立命館大学・産業社会学部・3回生

●この講座を受講して再度思うのが、こういったメディア業界の第一線で活躍されている方々の話を聞ける授業は自分の大学にはないので、受講して価値観やメディアコンテンツに対する考え方が変わったので受講してよかった。 京都産業大学・外国語学部・2回生